

かわべ

発行 河辺村公民館
編集 館報編集委員会
電話 河辺 17番
佐川印刷 KK
吉田町北小路 ☎2-0600

河辺村人口動態

(S. 51. 12月1日現)	
世帯数	629
人口	2,383
男子	1,188
女子	1,195
(S. 50. 10国調)	
世帯数	666
人口	2,368
(S. 45. 10国調)	
世帯数	71818
人口	2,810

自慢の作品せいぞろい

280点の出品でにぎわった文化祭



去る十月二十九日・三十日の二日間、公民館において文化祭が催され会場には家族づれのひとなど、約六百人がおとつれてにぎわいを見せていた。

展示会場では菊花展・盆栽展・生花展・短歌展・焼物の展・書道展・絵画展・文化財写真展・くらしの知恵工夫展など見事な作品が出品され、またアトラクションとして人気のあった婦人会のバザーや不用品交換会・スポーツ天国などがおこなわれ、各コーナーともに好評であった。

審査は特に菊花・盆栽・書道・絵画についてのみおこなわれ、三十日に表彰式があった。

○菊花の部(出品四十六点)
金賞 塚野キヨ子
銀賞 田中イシヨ・藤岡 秀男
銅賞 久保 久栄・和氣サワ子
兵頭ツタエ
佳作 大元 朝子・松尾恵美子
五頭アケミ

○盆栽の部(出品三十九点)
金賞 作見 弘幸
銀賞 運勢 義弘・植木喜佐男
銅賞 大見 明・久保 忠義

生活運動推進協議会が発足

去る十月十八日、河辺村生活運動推進協議会が結成された。

この協議会は、私たちの日常生活の中で、無駄な経費を節約し、合理的な消費生活を定着させると共に、豊かな人間関係づくりを推進するのが目的で、委員は、各種関係機関団体の長三十二名からなっています。

○地方祭の客事の簡素化について
○虚礼の廃止について
○結婚式の改善について
○その他

この協議会が、私たちの生活に、無駄な経費を節約し、合理的な消費生活を定着させると共に、豊かな人間関係づくりを推進するのが目的で、委員は、各種関係機関団体の長三十二名からなっています。

教育長就任のあいさつ



山本 伸

この館報に目を通し、頂上へ向う。粉雪の舞う師走を迎えることになる。今後は、まだまだ改善しなければならぬ問題が、たくさんある。この思いが、村民の皆様と共に、一致協力して、これらの問題に取り組み、本当に、明るく住みよい村作りを推進しようではありませんか。

この館報に目を通し、頂上へ向う。粉雪の舞う師走を迎えることになる。今後は、まだまだ改善しなければならぬ問題が、たくさんある。この思いが、村民の皆様と共に、一致協力して、これらの問題に取り組み、本当に、明るく住みよい村作りを推進しようではありませんか。

1、審査対象となる菊は花にポイントがつかれ、大輪菊は花色・大きさ・三輪のそろいをよくすることが今後大切だ。

特に鮮やかな純色(クリーム色・かば色等の混色は良くない)の品種を選べよう。

また、正面一輪は水平にし、後側の一輪を一段高くするように菊しりの時から心がけ、花の頭が正面を向くようにすることが大切。

2、下葉から青々と、病害虫に

道路清掃ごろうさま 原さんに大臣感謝状



原さんごうさん84は、このたび建設大臣から感謝状と、副賞として純銀製の盆が贈られ、その伝達式が十月四日に行われた。(過去には村から二回感謝状が贈られていた。原さんは白内障で五年間の全盲生活を送られ、四十七年四月に手術を受けられた結果、目が見えるようになった。)

昭和五十一年度の該当者は三十一人、去る九月六日現在で住民台帳により調べたものですが、記載もれや、その後に入された方があれば、さそく公民館(T.E.L.七番)へご連絡ください。

下大成 水本 亀清
上大成 富永 友江
日の平 安田美佐子
出合 向井 直高
榎谷 長岡代子
植松 真田 信幸・藤原 千鶴
智葉 正子・北川 悦子
赤ヶ滝 大野 昭光

新成人の該当者について

成人式は来年一月三日に

昭和五十一年度の該当者は三十一人、去る九月六日現在で住民台帳により調べたものですが、記載もれや、その後に入された方があれば、さそく公民館(T.E.L.七番)へご連絡ください。

下大成 水本 亀清
上大成 富永 友江
日の平 安田美佐子
出合 向井 直高
榎谷 長岡代子
植松 真田 信幸・藤原 千鶴
智葉 正子・北川 悦子
赤ヶ滝 大野 昭光

地域別年中行事

○十二月の行事 (名場連)
8日 〇お伊勢講 (寺 蔵)
20日 〇お伊勢講 (寺 蔵)
〇一月の行事 (大 成)
1日 〇お伊勢講 (寺 蔵)
4日 〇お伊勢講 (寺 蔵)
5日 〇お伊勢講 (寺 蔵)
8日 〇お伊勢講 (寺 蔵)
14日 〇お伊勢講 (寺 蔵)
15日 〇お伊勢講 (寺 蔵)
16日 〇お伊勢講 (寺 蔵)
〇念仏の口開き (露 内)
〇念仏の口開き (川 崎)
〇念仏の口開き (百合谷)
〇お伊勢講 (大 中)

やねばし

年賀郵便の特別取扱期間が迫ってきた。郵便局では、元旦配達に万全を期すために、十二月二十日までに差出された郵便物を呼びかけている。

年末年始にかけて、あらゆる郵便物の洪水の中で、残業、徹夜で処理される局員のことを思うと、まことに苦勞であり敬意を表したいと同時に、一人一人が呼びかけに協力したいものである。因みに、年賀状の歴史と変遷を調べてみた。明治十四年には郵便便がきで年頭の祝詞を送る人が続出し、都市の郵便局は正月早々大混雑したとある。勿論、当時の年賀状は正月を迎えてから書いていた。我が国の郵便のはじまりが明治四年であるから、郵便局ができて間もなく年賀状交換の慣習がはじまり、百年の歴史をもつことになる。

現在のように、年内に書いて出し、年頭に届くいわゆる年賀特別取扱制度ができたのは明治三十八年で、この年の取扱数が約一億通であったと記録されている。その後、大正十二年の関東大震災、昭和元年の大正天皇(逝去)の年だけは休止されたが、年毎に上昇して昭和十一年には八億五千万通(国民一人当たり約九通)に達した(翌十二年に日華事変がはじまり激減しながら十六年の太平洋戦争に戦火がひろがると同時に、全く消え去っていった)。

年賀状の復活は、終戦後の昭和二十四年、どうやら敗戦国民の心にゆとりができてきたとき、はじめて官製はがきに美しい色刷り、しかも当時の国民の射幸心理をついた「くじ式お年玉つき」で華々しいカムバックをした。発売日には戦前の配給時代を思わせる長い行列ができたほどである。

以来、年を追って年賀状も高度成長が続いたが、昨年はピークに発行枚数が減った。昨年は二十五億枚(一人当たり約二百五十枚)と、消費枚数は対して()まで迫るかは別である。

あすの農作業



栗のせん定と間伐

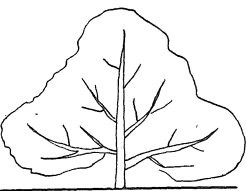
栗は日当たりによって花やイガが着き、日陰になると枝が枯れる性質を持っています。またイガが着くところは樹の周囲ですから、いかにして日の当たる表面積を多くするか、ということがせん定であり、間伐技術であります。

収量の多い樹の姿は図(1)のような不等辺三角形といわれており、放任すると図(2)のような性質を持っています。

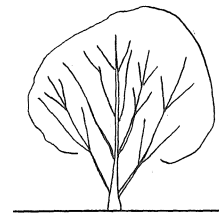
一、せん定

栗は自然の状態に置くと、今年発生した枝の先端から次年度二、三本強い鋭角枝が発生し、その下に水平に近い鈍角枝が発生します。これを放任すると、鋭角枝が勢力を強め、下枝が日陰となり、枯れ枝が多くなることも、ホーキを立てたような姿となります。従って図(3)の要領で、一年目からせん定によって下枝を強く横に張らすように工夫することがせん定技術のポイントです。

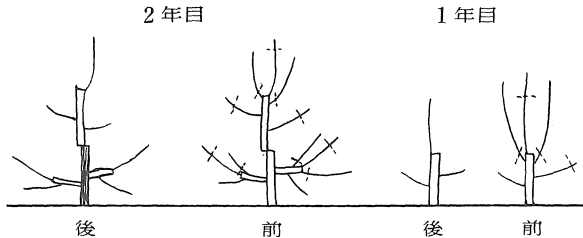
図(1) 優良樹



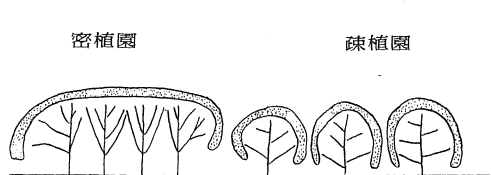
図(2) 自然樹



図(3) せん定方法



図(5) 密植園と疎植園の結果位置の相違



図(4) せん定のポイント

① 前年伸びた枝の先端に今年二又枝又は三又枝が発生しているのを、伸ばす方向の枝一本を残し、他の強い枝は切る。

② 強く太く伸ばそうとする枝は先端約三分の一程度切る。

③ 鋭角枝が多くなると良い結果母枝の発生をおさえる。

とめどもなく増える医療費と保険税

グループ紹介 ③

詩吟愛好会のつどい

このほど、大洲吟詠会河辺支部が再発足いたしました。大洲吟詠会森城先生の指導のもとに、男女、約二十名の方々が、毎週一回、一日の仕事を終えた後、植松公民館に集って練習しております。



◎公民館移転のおしらせ！

このほど小学校統合に伴い、ふたたび公民館がもとのお合へ移転しました。

交通事故0をめざして

交通事故防止について昨年は、念願の無事故達成をみることで、心で肌から学ばせることが大切で、社会で生きて行くのに一番大事なこと、自分と他人の命を尊重すること、自分と同時に他人の命を大切に考えられる人間を育てること。そして住みよい社会環境をつくるためには、幼児期から家庭教育の中で学ぶことだと思ひます。人間の発達過程でこそ、親の役割や心がまえが大切であるかと思ひます。

交通事故の防止に不幸のどん底に嘆く家庭は毎年ふつづつおひつきます。しかも、このような現実がもたらすのは、他人の命の犠牲です。交通事故から自分や他人の命を守るためには、まず交通事故の悲惨さに正しく目を向け、事故の陰にある人々の悲しみを知らねばなりません。

年末時の交通安全運動も近づいてまいりましたが、関係機関のみの運動ばかりでなく、皆さん一人ひとりが自分の問題として取り組んで行かなくては、真の運動の成果はあがらないと思ひます。

(交通安全河辺支部)

短歌

みほとけの慈悲を願うてつく鐘は
みだの浄土にひびき渡る 佐伯 範男

電線にあまた生るゝ露の玉
二尺ばかりを走っては落つ 関井恵美子

病む母のくるぶし高き足洗う
わが眼鏡は湯気にくもりて 清水 孝

うぶすなの祭り巡りてもうもの
あすへの願ひ秘めて語らん 大西ミツマ

うららかな色香ともに咲く梅の
花は春待つ心にもに 神納 関井 八重 (七九才)

消息

(出生) おめでとつごいます
用山 父 修 本田あゆみ
川崎 武夫 中村 清子
(結婚) 末ながくお幸せに
(宮崎) 清孝(上大成)
(松本) 照子(五十崎町)
(高木) 昭(稲谷)
(平井) 恵子(川崎)
(井寿茂) 久志(櫻)
(西山) 理枝(兵庫)
(柴野) 安広(用山)
(梅木) ハル子(寺敷)
(死亡) おくやみ申し上げます
百合谷 奥平三郎 (七九才)
日其川 寿野三郎 (六八才)
三久保 梅田幾次郎 (七四才)
神納 関井 八重 (七九才)